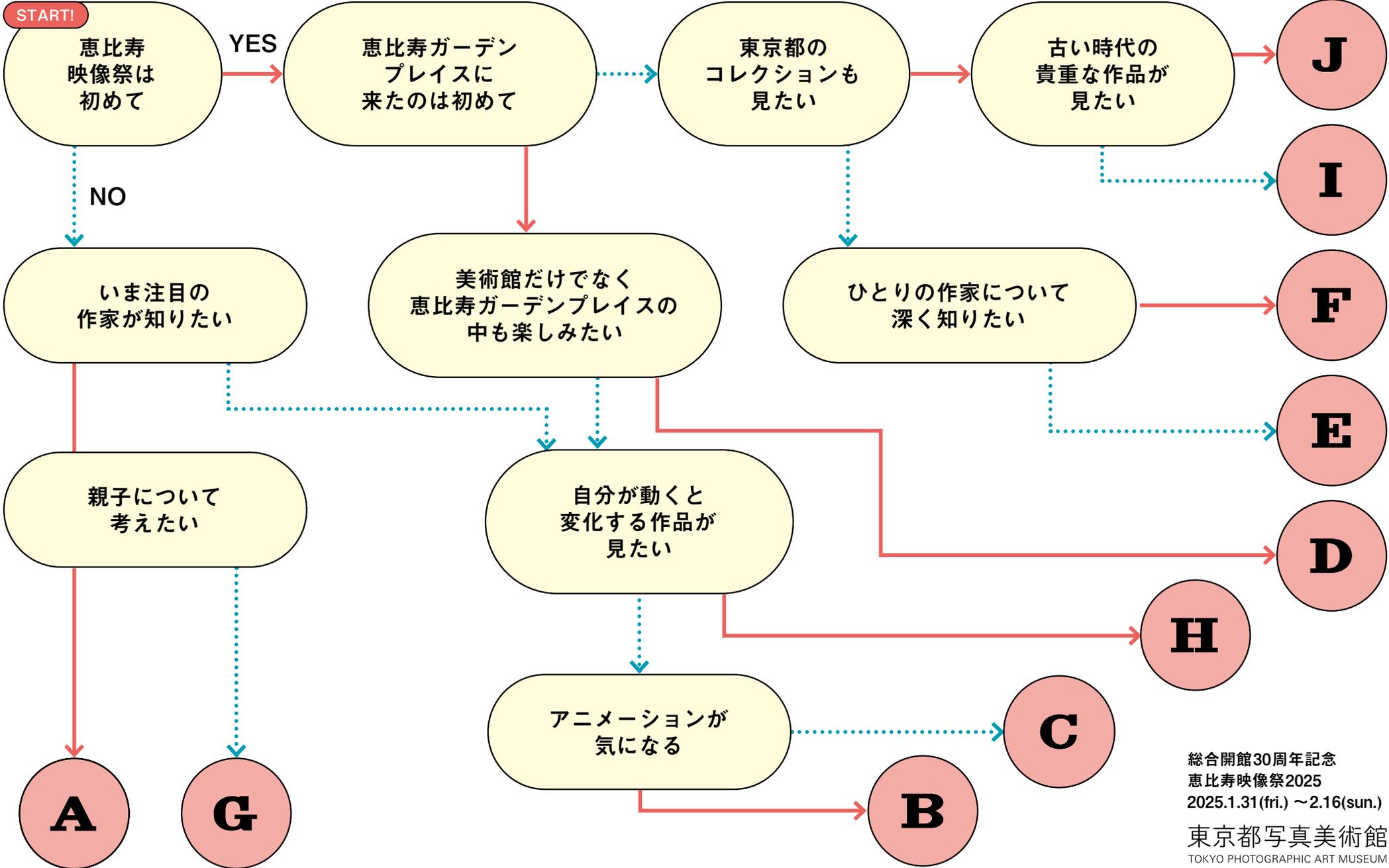
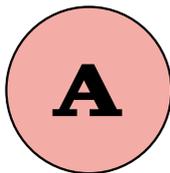


映像祭をじっくり見てみるガイド

→ YES → NO



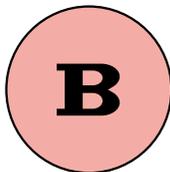
総合開館30周年記念
 恵比寿映像祭2025
 2025.1.31(fri.) ~ 2.16(sun.)
 東京都写真美術館
 TOKYO PHOTOGRAPHIC ART MUSEUM



小田香 (コミッション・プロジェクト)

3F

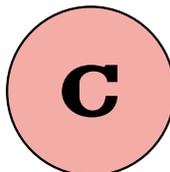
作家の母親をテーマとした映像作品です。一人の女性のこれまでの人生や、毎日の暮らしを撮影していますが、そこには、それまで作家が知らなかった、母親の生活なども含まれているようです。とても身近な存在だった人を、カメラを通して客観的に記録しています。あなたはあなたの母親のことをどのくらい知っているのでしょうか？



古川タク

B1F

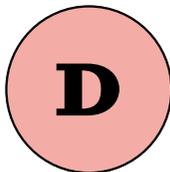
実在しない、イメージーションの世界の動物たちの動物園、imazoo(イマズー)。それぞれどんな動きをしていますか？そして、どんな特性を持つ動物なのか、想像を膨らませてみましょう。



林勇氣

2F

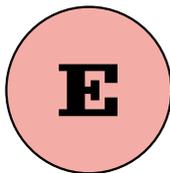
「風景」を意味するいろいろな国の言葉で、インターネット検索をした結果の画像にあった建物のイメージをあつめて、不思議な街の映像作品を作りました。それぞれの建物をよく見てみてください。それぞれのパーツはどんなところにあったものなのか考えてみましょう。



トニー・コークス

2Fおよび恵比寿ガーデンプレイス各所

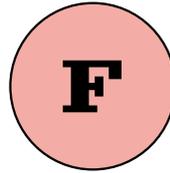
美術館の展示室や、館外の壁面の様々な場所に、鮮やかな色彩でテキストがかかれています。あるところでは音楽が流れていたり、バナーとして吊るされていたり、その場所によってテキストの内容も、作品のあり方も違ってきます。全部で4か所あります。ガーデンプレイスを散策しながら、さがしてみましょう。



アピチャップン・ウィーラセタクン

2F

展示してあるボックスの中に、さまざまな時間の単位で撮影した写真が入っています。とても長い時間のものであれば、短い時間のももあります。あなたがその写真を見るときにかける時間はいったいどのくらいでしょうか？



イトー・タリー

2F

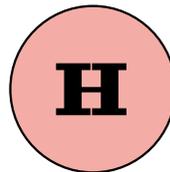
展示室の空間に、作家のパフォーマンス映像が流れ、いくつもの資料が置かれ、関連するチラシが何枚も貼られていて、中には作家が興味を持ちとおいたものが含まれています。どうぞ空間にじっくり滞在して作家の世界を紐解きながら、作家は、そして自分は何者なのかに思いをはせてみましょう。



劉玕 (リウ・ユー)

B1F

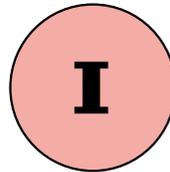
洪水をモチーフとする様々な国の神話をテーマとする映像が、壁に投影されています。その壁の前にはいくつかのオブジェが配置されています。どんな形をしていますか？ときどき、映像がオブジェに投影されるとまるで動いているみたいになって、見え方が変わるかもしれません。よく観察して何を表しているのか考えてみてください。



藤幡正樹

B1F

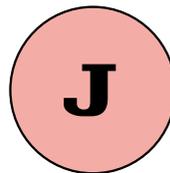
本の映像が写っています。設置されている専用のペンで画面をタッチしてページをめくってみましょう。それぞれのページに描かれたイメージをタッチすると、さまざまな反応が返ってきます。どんなイメージをどうタッチするとどんな反応があるのか、やってみましょう。



杉本博司

B1F

荘厳なシアターのスクリーンが白く光っています。作家はそれぞれのシアターに合わせて選んだ映画をスクリーンに投影し、映画が始まってから終わるまでの間シャッターを開放にして長時間露光で撮影していて、写真の中に映画一本分の時間が詰まっています。それはどんなしつらえの劇場ですか？どんな映画を投影していると思いますか？



ウィリアム・ヘンリー・フォックス・タルボット

B1F

世界で初めての写真集「自然の鉛筆」を展示しています。文字のページは、活版印刷とリトグラフを部分ごとに使い分けています。壁面に展示された写真をじっくり見て繊細な表現を感じ取ってみましょう。最後にQRコードを読み取って文章を読んでみましょう。どんなことが書かれていますか？その内容から、タルボットの写真についての志が垣間見えるかもしれません。

このほか、展示室には、48歳でキャリアをスタートした19世紀の女性写真家ジュリア・マーガレット・キャメロンの作品もあります。